

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

6月になりました！
一学期も折り返し

体育大会という大きな行事を終え、早二週間が過ぎました。それぞれに成長の手ごたえを感じ、少し大人に近づいたと思います。活動を通して自分自身や仲間に対しての新しい発見はあったでしょうか？少し時間が経過したからこそあらためて思い出してみてください。そして、振り返ってみてください。しっかりと自分の中で納得して、また次の目標に向かって、前に進んでいきましょう。

部活動では一年で最も大きな目標である中総体の地区大会が月末に行われます。今のチームで今のメンバーで活動するのは最後の大会です。活動できる感謝の気持ちをもって、仲間たちを信じてこの一か月の練習に向き合ってください。全中での優勝チーム以外は「負けて引退」します。最後に、自分が納得する

くの不安」「自分の意思が尊重されなかったことへの不満」ではありませんか？自分に最も合う仕事や役割を、自分が客観的に理解していることは少ないようです。

ためには、それまでの練習をやり切るしかないと思います。不安と向き合い、逃げずに自分のできることを最後の最後までやり切る。試合に出ても出なくても自分のやるべきことをしっかりと考え、判断しやり切る。最後の最後まで諦めずに前を向き、自分の思いを出し切るプレーを続ける。

誰かが自分の思い通りに動いてくれなかったとしても不満に思っている時間はありません。「自分の出来ること」を懸命にやり切ってください。全ては自分自身の成長のためです。令和6年の今この時を迷わずに突き進んでください。心から応援しています。

やってみるまでわからない自分の「適性」

これは自分に向いている、これは自分には合わない…よく聞く言葉です。ちょっと立ち止まって本当にそう？と考えてみます。そう思ったのはなぜ？それは正しい理由？ほかにそう思った原因がない？突き詰めていくと割と「思い込み」「食わず嫌い」「何とな

私自身も自分のことを知っている「つもり」でしたが、意外な一面を引き出してもら

うことも本当に多くありました。それは周囲の人の何気ない言葉であったり、家族や友人との「対話」の中で気づいたりでした。人から勧められたこと、家族や友人からの助言は、実は自分よりも自分自身を正しく言い当てられているのかもしれない。

私はそう思ってから、依頼されたことや頼まれたことには時間的に無理なこと以外は全部引き受けるようにしています。やってみて初めて、「なるほど、そういうことかあ」と腑（ふ）に落ちることが多いからです。そして「割と向いているかも」と新しい自分の一面に気付いたり、その分野の見方や考え方が自分の仕事に活かせたりと、プラスになることが多いからです。

自分の良いところや合うものを見つけるためにどんどん家族や友人、先生方と対話をして「新しい自分の意外な一面」を探してみてください。いつでも話を聞きます！

バイク旅の危険①

天候の急変…雨季と乾季があるオーストラリア北部のジャングル地帯では、川に橋を架けないところが多いです。普段は干上がっていて地下水脈になっている「ワジ」（枯川）が多く、道は川底に沿って一本舗装路があるだけです。

乾季は全く雨が降らない北部も、雨季になると一転し豪雨が降り続き場所によっては水位が7、8メートル上昇し道路はいたるところで寸断されます。今走っている場所が晴れていても川の上流にあたる場所に雨雲があれば、いきなり水が流れてくる危険があり、常に注意が必要

です。私は一番長くて30メートル程の川をバイクで渡航しましたが、そんな時は流れる水の中に入って一旦向こう岸まで歩いて渡って、深さと水深と水流の強さを確認し、行けそうならば上流から斜めに渡ります。

そんなはずないと分かっているても上流からワニが流れてくるんじゃないかと、濁った川の中を越えるのはなかなか怖い体験でした。行くか待つか、その判断はすべて自分の責任です。バスは水が引くのを三日位待つことはザラだそうです。

校長室より

私は水流の強さで真つすぐバイクを保持できないときや、深さがタイヤの半分以上のときは渡らないと決めて、必ず自分で向こう岸まで渡ってみてから判断しました。弟は私と入れ替わりにオーストラリアに渡り、川の中でバイクを倒して壊してしまったこともあり、一度も川の中で転倒しなかったのはまあ幸運だったと振り返ります。自分の責任で判断すると偉そうに言いましたが、「運」の要素も大きいです。自分と対話し、「行くか待つか」決めるのですが今ならば「待つ」方を選ぶかな？

今年は様々な役職に就き、学校を不在にすることが増えました。恒例の図書室での昼休みの読書もなかなか行けません。また首を痛めたこともお知らせしましたが健康面でも万全ではない日々です。そんな時でも、朝子ども達とかわす何気ない会話や、出張に出るときに「いってらっしゃい」と手を振って元気に送り出してくれる明るさに本当に癒されます。

首にコルセットを付けていたのを見た一年生は、「首、大丈夫ですか？」と心配してくれました。優しい気遣いをしてくれる子どもたち、そして教職員の皆様、みんなのおかげで首は痛くても今日も元気に明るく、そして楽しく学校で過ごせています。本当に感謝！